



## 親愛のメッセージ

校長 藤森克彦

新型コロナウイルスの感染状況も落ち着き、ようやく学校公開や展覧会をご参観いただくことができました。ご来校には人数を制限するなどご無理申し上げましたが、ご理解ご協力いただきましたこと、改めて感謝申し上げます。

さて、私事ですが、先日両国にある江戸東京博物館で開催されている特別展「縄文 2021—東京に生きた縄文人展」に行ってきました。東京にもたくさんの縄文遺跡があり、それらの遺跡から縄文人の暮らしぶりを考えるという内容でした。東京の縄文時代を考える大規模な展覧会は35年ぶりとのこと。この展覧会のプロローグは大森貝塚の紹介から始まっており、日本の考古学発祥の地として、ほかの遺跡と比べその存在感は際立っていました。大森貝塚の地元の学校として誇らしく思いました。

本校では、毎年4年生を対象に大森貝塚の学習を行っており、大森貝塚保存会会長の関俊彦先生に直接指導していただいています。子どもたち一人ずつにオリジナルの教本をご用意いただき、土器や石器など縄文時代の実物に直接触れるなど、普段ではできないこともさせてもらっています。また、あわせて品川歴史館や大森貝塚遺跡庭園で学習するなど、地元の文化・歴史の価値を直接学ぶことも大切にしています。これほどまでの大都会に太古の息吹を感じることができる場所は、都内でもそうそうありません。恵まれた環境にあると思います。近隣に学校はいくつかありますが、大森貝塚の学習を継続的に行っている学校は本校だけのようで、これを機に子どもたちの心の中に少しでも「地元愛」が芽生えてくれることを願っています。

ちなみに、「縄文時代」という名前は、縄文土器が使われた時代として名付けられました。それは、土器の文様の多くが撚り紐（よりひも）を転がして作られているからと言われていています。これは大森貝塚を発掘調査したエドワード・シルベスター・モースが発掘調査の報告書の中で、大森貝塚から発見された土器に縄目模様があることから「cord marked pottery」と記載しました。それをのちの日本人学者が訳した際、「縄紋」と訳し、その名称が定着し、のちに「縄文」と書かれるようになったとのことです。「縄文」が大森貝塚発祥だったとは驚きです。

ところで、あとわずかで今年も幕を閉じますが、時の経つのは早いものです。冬休みは家族で過ごす時間も増えると思います。最近よく「シェアする」と言いますが、窓の外に富士山や海が見えたら「ほら、富士山/海が見える!」。料理がおいしかったら「これ、おいしいね」と伝えたくくなります。美しい景色を見たりおいしいものを食べたりして感動したとき、誰かと共有せずにはいられなくなります。無意識のうちにスマホで写真を撮って、SNSにアップするなどということもしばしばです。

では、なぜ私たちはシェアしたくなるのでしょうか。『世界は贈与でできている』近内悠太著(2020)によると、美しい自然に感動したことや自分にとって大切なことを得たりしたことを、まだ受け取ることでできていない誰かに向けて与えていくこと。そして、相手に分かち与えたものを相手が受け止めてくれる。それらのことが互いの親愛の証だからだということです。感動は生命力の源だと考えれば、子どもから発せられた感動の一言は生命力のメッセージであり、それを我々大人は受け止め共感しなければならぬというのは言うまでもありません。つい他のSNSに夢中になり、我が子から「親愛のメッセージ」を「着信拒否」してしまっただけは大変残念です。

先日の大森貝塚の学習の中で、子どもたちが関先生に投げかけた「当時の人たちはどんな言葉で会話していたんですか」という質問。そもそも縄文時代の会話の様子が分かる記録がなく、明らかなことは分かっていないとのことですが、今の日本語とはかなり異なっていたものの何らかの会話はしていたそうです。そこでも、互いに「親愛のメッセージ」をシェアしていたのかもしれない。

## 展覧会委員会より

展覧会委員長 森 はづき

たくさんの方においでいただき、「Oh1 Art Museum ～形と色に向き合う時間～」を開催することができました。展覧会では、子どもたちの日頃の学習の成果と創意工夫が感じられる作品の数々を楽しんでいただきましたでしょうか。

児童鑑賞日には、友達のすてきな作品を見付ける子、下級生の立派な作品に驚く子、上級生の作品をみて「こんな作品を作りたい！」と憧れを抱く子がいました。制作している時のみならず、鑑賞している時もまさに「形と色に向き合う時間」として心豊かに過ごしていた様子が多く見られました。子どもたちにとって、展覧会のように周りの人から自分がつくり出したものが受け入れてもらえることや、楽しんでもらえるのだということが感じられる経験は安心の土台となり、表現活動の基礎になっていくと思います。展覧会を通して子どもたちがより一層のびのびと表現し、互いの表現を認め合えるようになっていくと感じています。

※品川区ホームページの「しながわ写真ニュース」に掲載されました。よろしかったらご覧ください。

## 初めての展覧会

1年担任 滝川 幸恵

1年生にとって初めての展覧会は、どの作品の制作も楽しみながらも真剣に、夢中になって取り組みました。とろとろとした液体粘土や絵の具、カラフルで力強い墨汁やクレヨン、自由に折る・切る・貼ることのできる色画用紙、光を通すペットボトルやセロハン、子どもたちはそれぞれの素材の特長を確かめながら、豊かな創造力を発揮して素敵な平面作品・立体作品を生み出していました。また、共同作品では自分一人だけの力ではなく、友達と協力して一つの作品を創り上げる経験もしました。

展覧会の鑑賞では、他の学年の作品や会場全体の様子を、目を輝かせながら見て歩き、「自分もこんな作品を作りたい！」と上級生への憧れと、将来の自分の作品制作への意欲や期待をもつことができました。展覧会を通して、またぐんと成長した1年生。2年後の展覧会が今からとても楽しみです。

## 町探検に行きました

2年担任 岸田 淳生

11月10日(水)生活科で町探検に行ってきました。今回は学校の近隣の区の施設見学ということで、3グループに分かれて品川歴史館、大井図書館、滝王子児童センターに行きました。それぞれ施設の中を見学したり、施設のはたらきについて説明を受けたりしました。初めてのインタビューに少し緊張していましたが、質問にも丁寧に答えていただき、安心して学ぶことができました。



探検から帰ってきた児童のワークシートは、メモがたくさん書いてあり、短い時間をしっかり集中して取り組んだことが分かります。この後、見学で分かったこと、答えていただいた内容や自分たちが見つけたものを一年生に伝えるためにまとめていきます。

## 社会科見学・展覧会

3年担任 村上 剛

区で借り上げたバスで区内めぐりに行ってきました。武蔵小山商店街では、グループでオリエンテーリングを行いました。商店街の方にインタビューするグループもあり、商店街の工夫について学ぶことができました。城南島海浜公園では浜辺でゆっくり過ごすこともできました。そもそも東京都が城南島に公園を作ったのは「東京湾をはじめとする自然環境の整備」が目的であり、そのおかげで海がきれいであることは東京都民として知っていてほしいことです。最後にトラクターミナルを見学し、流通について学ぶことができました。

1学期から展覧会に向けて作品づくりを頑張ってきました。最初は絵の具の使い方が難しかった子どもたちが、パレットを上手に使ったり、水の量を調整して色合いを工夫したりする姿が見られ成長を感じました。3年生の作品の特徴は「どの作品にもそれぞれの物語がある」ことです。一人一人の作品を見ていただいた時に、一人一人の物語を感じてもらえたら、大成功だと思います。

## 大森貝塚の学習

4年担任 福本 千絵

大森貝塚庭園が近くにある(約4000年前から人が暮らしていた)という恵まれた地にある本校では、毎年4年生が「大森貝塚」についての学習を行っています。

11月6日(土)には、大森貝塚保存会の関俊彦先生をお招きして前半はお話を伺い、後半は土器や石器の実物を見たり、触ったりする体験をしました。「大丈夫かな」と恐る恐る土器を持ち上げたり、「わあ〜。つるつるしているよ」と石器を握ったりする子どもたちの目がキラキラ輝いていたのが印象的で、本物に触れることの大切さを改めて感じました。

また、11月11日(木)には品川歴史館を訪れ、学芸員の方から大森貝塚の説明を聞き、展示物の見学をしました。見学した次の日には、「友達と『また来よう』って約束した」「放課後に大森貝塚庭園へ行ってきた」という話を聞きました。興味をもったことをすぐに行動に移す子どもたちの姿に感心しました。今後は特に自分が興味をもったことについて調べてまとめ、3年生に発表する活動につなげていきます。

「縄文人は自然と共存し、人と関わりながら協力して生きていた」と関先生はおっしゃっていました。学んでいく中で「人として大切なことは約4000年前から変わらない」ということが一人一人の心に刻まれていくことを願っています。



## 琴の体験授業

5年担任 小池 絢子

5年生は2日間にわたり、琴の歴史や弾き方のご指導を頂きました。畳の匂いが香る中、始まった琴体験。子どもたちは夢中になって、初めて触れる琴に取り組んでいました。弦のはじき方やおさえ方に注意しながら「さくらさくら」の合奏をしました。

凜とした琴の美しい音が響く中、「次はこの弦だよ」「上手だね!」「こうすると弾きやすいよ」と友達を励ましながら演奏する子どもたちの姿が印象的でした。休み時間には、「もっとやりたい!」とすすんで練習に取り組む子どももいました。「さくらさくら」の曲を奏でることを通して、雅な気持ちを育むことができたのではないかと思います。日本音楽の伝統文化に親しむ貴重な体験となりました。



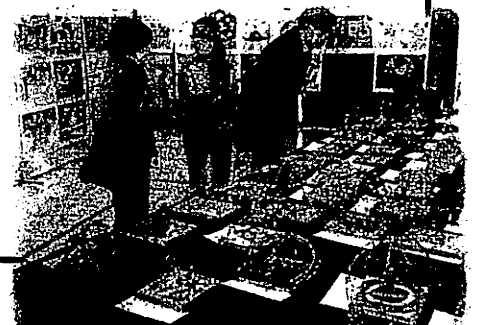
## 6年生 学年の様子

6年担任 岡崎 真由美

11月20日(土)の展覧会で「子ども学芸員」の活動をしました。会場にいるお客さんに対して、ギャラリートークに挑戦しました。めあては次の3点です。

- ①各学年の作品について紹介したり、対話をしたりすることで、見に来ていただいた方に鑑賞を深めてもらうこと。
- ②様々な方の作品の見方に触れて、自分の鑑賞を深めること。
- ③気持ちよく展覧会を鑑賞してもらえるように、明るくあいさつしたり、声をかけたりすること。

ただ作品の説明をするだけでなく、好きな作品を聞いたり、自分の好きな作品を紹介したりして、お客さんと対話をしました。知らない大人に声をかけるのはなかなか勇気がいることだと思いますが、勇気を出して自分から声をかけ、担当する学年の作品について、丁寧に対話をする姿がたくさん見られ、成長を感じました。



年間重点生活目標「大一ABCを身に付けよう」  
 今月の生活目標

生活のめあて	正しい姿勢でお話しを聞きましょう
保健のめあて	うがいと手洗いをしよう
給食のめあて	きれいに手を洗おう



## ★12月の行事予定

日付	曜	主な行事	日付	曜	主な行事
1	水	体育朝会①避難訓練 煙ハウス体験(3年)	17	金	児童集会 フレンドまつり
2	木	体育朝会① 「リンゴ」授業(5年) 縦割り班会議②	18	土	
3	金	クラブ発表 委員会⑧	19	日	
4	土	安全指導 土曜授業(授業参観) ドリームジョブ(5年) 区内一斉防災訓練	20	月	補習教室①
5	日		21	火	放送朝会 脊柱側彎症検診(5年) 補習教室② 6年体育祭(6年保護者参観あり) 保護者会(6年)
6	月	自転車安全教室(3年) フレンドタイム⑥ 縦割り班会議③	22	水	音楽朝会 租税教室(6年)
7	火	放送朝会 「乾物」授業(6年)	23	木	給食終 補習教室③
8	水	体育朝会②	24	金	終業式
9	木	体育朝会② 社会科見学オンライン(5年)	25	土	
10	金	クラブ発表 「乾物」授業(6年) クラブ⑥	26	日	冬季休業始
11	月		27	月	
12	火		28	火	
13	水	フレンドタイム⑦ 縦割り班会議④ すくすくスクール(最終)	29	水	閉庁日
14	木	放送朝会	30	木	閉庁日
15	金	「昆布」授業(5年) ネットリテラシー授業(3年)	31	金	閉庁日
16	土	「昆布」授業(5年)			

### 年末年始について

① 2/28(火) 17時～1/4(火) 8時  
は夜間等電話委託の業務はお休みと  
なります。  
② 2/29(水)～1/3(金)は年末年始  
の閉庁日につき入校できません。

### 生活指導部より

生活指導部 中元 早紀子

師走に入り、世の中が慌ただしくなる時期です。16時30分頃を過ぎるとあっという間に陽が落ちるようになり、大一の子どもたちの放課後の過ごし方を心配しています。

- ① 約束の帰宅時刻は守られていますか？
- ② 自転車のライトの点灯は確実にでしょうか？
- ③ 自動車・バイクのドライバーから認識されやすい服装でしょうか？

事故・事件にまき込まれないために、今一度、お子さんと確認をよろしくお願いします。

また、学期末にあたり学習用具の計画的な持ち帰りを担任より声かけをします。

冬休みの過ごし方についても、お便りを配布し指導する予定です。安全第一・健康第一で新年を迎えられるよう、引き続きご協力をよろしくお願いします。

### リレーコラム「かかわる、創る」

5年担任 小林 雄大

これまで多くの時間を費やし、また創意工夫を積み重ねた展示会が終わりました。色とりどりの作品が展示される中で、子どもたちも多くの感動や驚きを抱くことができました。鑑賞カードには、「1年生の作品がかわかった。自分が1年生のころを思い出した」「天井に飾られた多くの傘の色が鮮やかで素敵だった」など、子どもたちの心に大きな思い出を残してくれました。保護者鑑賞日には、多くの保護者の方が訪れ、来校された方々を6年生が丁寧に案内していました。保護者の多くから、「やっぱり6年生はすごい！未来をイメージした作品も自由な発想に本当に驚いた」「6年生の丁寧な案内に感動した」など、たくさんの称賛の声を聞きました。

最後には、5年生が体育館をきれいに片付け、展示会を締めくくりました。最初から最後まで、子どもたちの活躍が光る、まさに子どもが創った展示会になりました。これからも子どもたちが力を合わせ、関わりが大きな成功につながるような体験を積み重ねさせていきたいとおもいます。